

中心市街地循環バスの実現について

(姫路市中心市街地活性化基本計画に対する意見より抜粋)

J R 山陽本線により南北に分断されていた中心市街地が、連続立体交差事業により一体化する。しかし、バス交通は姫路駅を中心に放射線状に伸びたままで、南北市街地を環状方向に移動することが困難である。また、姫路の特異性として、中心市街地が姫路駅の南北に広く拡散してしまっており、歩行のみで回遊するには困難な広さとなっている。

そこで、既存路線バスの便益が未達の地域に35人乗り程度の低床小型バスを循環運行させることによって、中心市街地内における交通利便性の創造と中心市街地周辺区域から中核区域への誘客による通行量の回復を図ることが喫緊の課題である。

については、南北に広く拡散している都市機能（行政機関、公共施設、商業集積、業務集積、住居等）を結び、中心市街地における回遊性を高める中心市街地循環バスの運行を実現させるため、まずは、社会実験の実施に向けて取り組むよう要望する。

なお、現在検討している中心市街地循環バスの概要素案は下記のとおりであり、今後、姫路まちづくり推進機構（仮称）において詳細を詰めていきたいと考えている。

名 称	中心市街地循環バス（中活バス）
運営主体	まちづくり姫路（株）
バス料金	1回100円前払い
利用者数	目標20万人/年、550人/日、10.9人/便
収 支	収入目標20,000千円、支出見込30,000千円
ル ー ト	1周6km程度で、J R ・ 山陽電車姫路駅、市役所、県民局、国出先機関、商業集積、病院、住居等を結ぶ。
ダイヤ	15分間隔（約50便/日）
バス停	約200m間隔
車 種	35人乗り低床バス、自動アイドリングストップ機構、エコ燃料使用
備 考	当事業が成り立つよう資金面、人材面における姫路市の支援が必要である。

以 上